

川田池 (かわだいけ)

位置図



諸元

貯水量	248.8 千m ³
満水面積	8.3 ha
受益面積	100.0 ha
堤高	9.7 m
堤長	198.0 m

川田池は東かがわ市の厄除けの寺として有名な与田寺の近くにあり、香川県東部では有数の規模を誇るため池です。この池がいつ造られたかは不明ですが、寛永年間(1624～1645年)の讃岐の国の古い図に、すでにその名があるので、それ以前の築造と推測されます。

池の名前は、その昔、孝霊天皇の第二皇女である百々委姫(ももそひめ)が、わけあって都から流され東かがわ市馬篠海岸(うましの)に流れ着き、川田池まで来て顔を洗ったので「かおだ」と呼ばれ、これがなまって「川田」になったと伝えられています。

昭和21年(1946年)の南海地震で堤防の真ん中に30mにわたる亀裂が入り、補修を行ったのですが、その後急速に老朽化が進みました。そして昭和38年度(1963年)から、県営大規模老朽ため池事業として、堤体補強、洪水吐及び取水施設の改修を行い昭和41年(1966年)に完成しました。

香川用水の通水後は水不足の声は聞かれなくなりましたが、堤防には雨乞いの神様で知られる長尾町の「女体さん」の分身が祀られています。

今、同池のすぐ東側の丘は人形劇で有名な「とらまる座」が、水辺を囲む渚には遊歩道が造られ初夏に若葉、晩秋に紅葉を散策しながら楽しむことができます。更にすぐ南側に高松自動車道が整備され、池周辺の景色も昔と違ったものになっています。



高松自動車道付近からの遠景



とらまる公園と川田池の渚